

Ⅲ 実践事例

指導の形態 教材等	算数「持っているお金を工夫して代金を払おう」 ～複数学年による金銭指導～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・学校行事（アフリカンサファリ見学）で買い物をすることと関連付け、算数で金銭の学習を行う。それにより児童が意欲的、実践的に力をつける学習になるよう工夫を図る。
- ・学習目標が異なる児童一人一人に応じ、支援ツールの活用の仕方を変えて指導する。

児童生徒の様子

- 小学校5年男子A
 - ・見通しがもてると意欲的に活動に取り組む。
 - ・1～10までの数を数えとることができる。
 - ・お金を数える学習は好きで意欲的に取り組む。
- 小学校6年男子B
 - ・間違いが連続したり、注意されると意欲がなくなる。
 - ・お金の計算は好きで、五・五十・五百円硬貨も使いながらちょうどの金額をそろえる。

目標

- ⇒ ○小学校5年男子A
 - ・ちょうどの金額（○百△+□円）の支払いでお金が足りない時、両替し、ちょうどの金額を作る。（十円硬貨が足りない時百円硬貨10枚。一円硬貨が足りない時十円硬貨10枚。）
- 小学校6年男子B
 - ・値段に応じて少し多めの金額（千円・百円・十円硬貨を使った一桁上の多め）を作る。

支援のポイント

<共通した問題>
「食べ物の写真カードが3枚あります。順番に1枚ずつ選んで、それぞれの代金を作ろう。」

<A児のめあて>
100円や10円を使って、ちょうどの金額を作ろう。

<B児のめあて>
ちょうどの金額が作れない時のお金の出し方を考えよう。

(A児の活動)



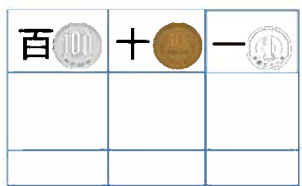
- ① 3枚のカードの中から1枚を選んで自分の机に置く。
- ② 位取り板の上に位ごとに金額を書く。
- ③ コインケースからお金を出して並べる。
- ④ 両替シートで確認しながら百円硬貨や十円硬貨を両替する。
- ⑤ そろえたお金をコイントレーに移し、教師と確認する。

(B児の活動)



- ① カードを1枚を選んで自分の机の上に置く。
 - ② 位取り板の上に位ごとに金額を書く。
 - ③ 箱の中からお金を出して並べる。
 - ④ できあがったら教師に伝える。
- * 284円の場合、1000円や300円も間違いではないことがわかり、一桁上の金種：290円を作る。

(A児位取り板)



(両替シート)



(B児位取り板)



※十円硬貨を10枚集めて百円硬貨に、また、一円硬貨を10枚集めて十円硬貨にする活動も併せて行う。

- ① 百円硬貨が足りない時 → 千円札
- ② 十円硬貨が足りない時 → 百円硬貨
- ③ 一円硬貨が足りない時 → 十円硬貨

指導の形態	算数・数学「金銭の使用」 ～〇百△十□円をそろえよう～	障がい種等	特別支援学級 知的障がい
-------	--------------------------------	-------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・子どもの集合数の実態を加味して、教材教具を工夫した事例。
- ・金銭処理にかかわる経験の少なさを考慮して、段階的な計画で指導を進めた事例。
- ・数学科の授業と生活単元学習を関連づけて指導。

児童生徒の様子

- 30までの数唱ができる。
- 10までの数えとりが正確にできる。
- 1ケタの足し算では、ブロックを使って「合体」させて、まとめた数を数えて計算することができる。
- 1円・10円・100円の硬貨の違いは、色や数字を見て判別することができる。
- お金の学習は未学習である。



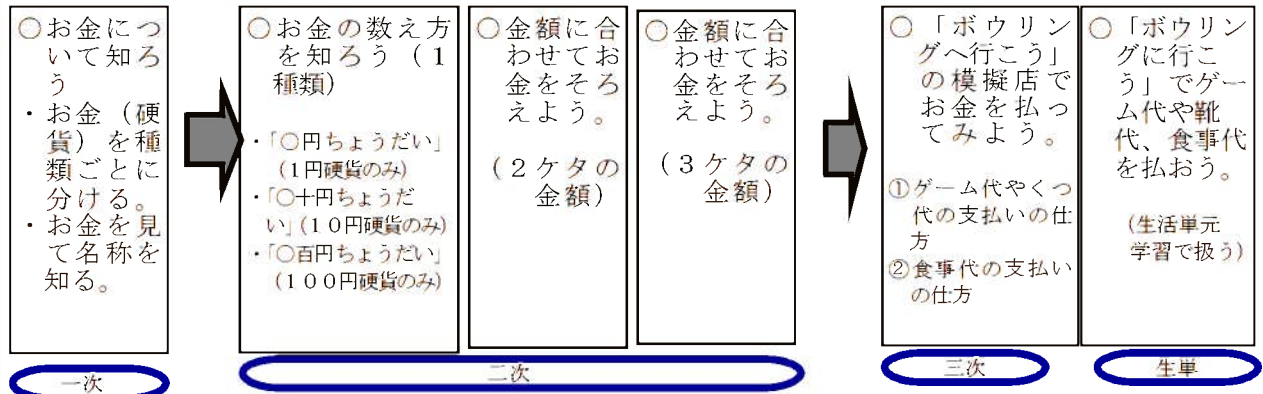
目標

- 買い物や金銭についての学習に興味関心を持ち、意欲的に活動することができる。
- 3種類の硬貨とその名称、数え方が分かる。
- 品物の金額を見て、「〇百△十□円」と言うことができる。
- 支払いボードを使って、金額を揃えて支払いをすることができる。

支援のポイント

☆指導の進め方（題材計画）

初めて金銭を扱う児童であるので、丁寧に段階的に指導を進める。



☆教材教具の工夫

《「お金ボード」》
位毎に、正確にそろえるためのボード。3段階で順に指導していく。

- ①位ごとに区切って色分けをしてお金を並べるスペースがある
- ②位ごとに区切ってお金を並べるスペースがある。（色なし）
- ③数字の表示のみでお金をそろえる。

位をわかりやすく示した値段表示。（位毎に分解できるようにし、そろえやすいようにした。また、位毎に色分けして、わかりやすくしている）

《金種毎に分かれている財布》

- ①3種類の硬貨を弁別した財布
- ②3種類の硬貨が混ざりあった財布
- ③6種類の硬貨を弁別した財布
- ④6種類の硬貨がまざりあった財布でお金をそろえる。

※携帯用の財布をさらに工夫する。

《確認カード》
お金をそろえた後、自分で正しくそろえているかを確認できるようにする。

《記録》
つなげるために、買い物ができたものを記録に残す。

指導の形態 教材等	算数「模擬時計で時刻を作ったり、計算したりして、生活表を作ろう」 ～題材の組み方の工夫～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

遅刻が多いなど、日常的に時間を考えながら生活をするという意識が薄い児童に対して、この学習を通して時刻や時間に関心を持ち、日常生活の中で生活表をもとに時刻を意識して活動することができるようにする。

児童生徒の様子

- 小学校2年女子A
 - ・頭の中だけで時刻や時間を考えること難しい。
 - ・模擬時計を操作し長針短針と文字盤の数を一致させることで時刻がわかる。
- 小学校4年女子B
 - ・時刻はアナログ時計を見て読むことができる。
 - ・時間を計算して時刻を求めることは難しい。

目標

- 小学校2年女子A
 - 時○分の△分後（前）の時刻を問われた時に、○分を基点とする数え方がわかり、模擬時計を操作して、その時刻を作る。（○分は5分毎の数字のある場所、△は60以内）
- 小学校4年女子B
 - 時○分から■時●分までの間の時間を求める時、立式や計算の仕方がわかり、計算して◎分間と答えることができる。（○<●、1日内、午前～午後を含む）

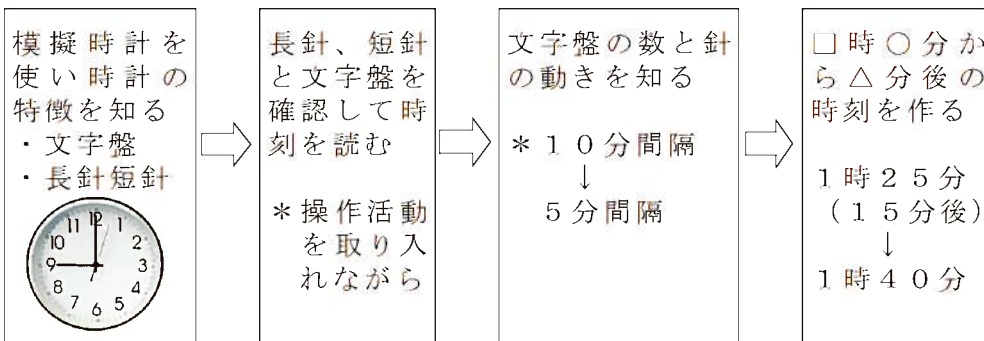
支援のポイント

○本時のめあて

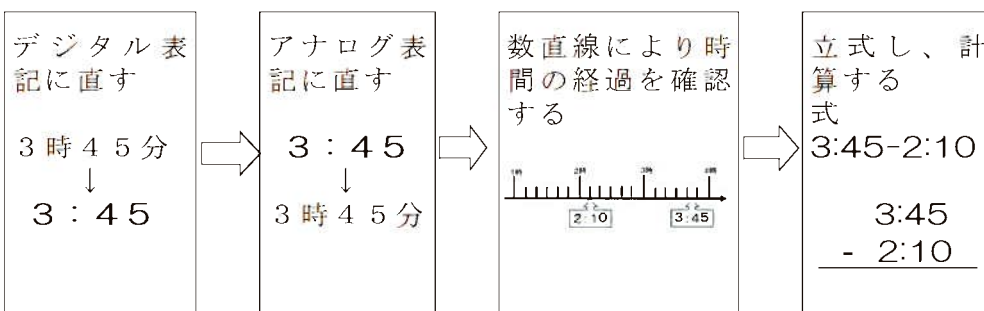
- (A児) □時○分から△分後の時刻を問われた時、始点から長針を5分毎に目盛りに合わせて△分まで数えればよいことがわかり、長針を5分毎に目盛りに合わせて数え、△分動かした時刻を作ることができる。
- (B児) 時間の計算で、式を立てた後、●分から○分が引けない時、時を分に変換して計算すればよいことがわかり、計算をして◇時間◆分を求めることができる。（○>●、午前内、午後内）

○題材の組み方のポイント

(A児)



(B児)



生活表

行事や一日のスケジュール、生活場面での活用を図る。

指導の形態 教材等	算数「3までのかずをそろえよう」 ～数の基礎概念の育成～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---------------------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・ 具体物を使ったり、文字を書いた教材を使ったりして、数字と具体物を対応させながら見分けがつけられるようにする。
- ・ 目と手の運動感覚に働きかける仲間分けや一対一対応の学習をとおして、数量概念の基礎を養う。

児童生徒の様子

- 10までの数字を読むことができ、1から順番に数字を並べることができる。
- 具体物を同じものに分けたり、同じ色のものを集めたりできる。
- 「1（1つ）取って」と言われて、具体物を1つとることは難しい。



目標

- 色や形で仲間分けができる。
- 形（丸、三角、四角）を見て、答えることができる。
- 1～3の数字カードを見て、磁石を数えとることができる。

支援のポイント

○ 色や形の仲間集め（教材1・2）

- ① 同じ色集めをする。
- ② 形ごとに仲間集めをする。

教師が仲間分けの見本を見せて、子どもが仲間分けをすると取り組みやすい。



教材①



「おおきい」「ちいさい」と言いながら文字も一緒に示すと大小の仲間分けもできるようになる。

教材②



○△□の仲間分けをする時は、教材②のように文字を提示するようにして形をイメージさせると、「まる」「さんかく」「しかく」の区別もできるようになる。

○ 一対一対応、3までの数（教材3）

- ① 赤のドットマークの上に磁石を並べる。（一対一対応）
- ② 数字とマッチングさせる。
※ マッチングができるようになったら、徐々にドットカードを減らしていき、数字をみせて、磁石をそろえるようにしていく。
※ 3まで磁石でそろえることができるようになった後、具体物を使って同じように3までそろえることができるようにする。

教材③



指導の形態 教材等	数学「比例のグラフ」	障がい種 等	特別支援学級 自閉症・情緒障がい
--------------	------------	-----------	---------------------

授業の概要やよさ

- ・言葉の使い方、課題プリントの内容を工夫し、苦手意識のある教科の内容理解を図る。
- ・他教科の先生と連携し、交流学級での授業もわかりやすくなるよう板書の仕方を統一。

児童生徒の様子

中学校 1 年生

- 数学の学習では、計算は得意だが、文章を読んで方程式をつくることなどが苦手。
- 比例のグラフでは教科書を見て説明するだけで理解することが難しい。
- 問題がわからなくなると、その後の活動が進められなくなる。

目 標

- 座標点の変化の様子を電車の動きと関連させることで、グラフの見方を理解する。
- $y = ax$ のグラフを色分けし見やすくすることで、 x の増加量とそれに対応する y の増加量との関係をグラフを用いて調べることができる。

支援のポイント

<工夫1>

わかりやすい言葉で苦手意識を軽減

始めは x 、 y の文字を使用せず、座標、原点という言葉の代わりに、本人が興味のある電車にちなんだ言葉を使い学習する。横軸に「時間」縦軸に「距離」をとり、一定の速度で走る電車の時間と距離の関係をグラフにかき表す（ダイヤグラム）学習からはじめることで、苦手意識の軽減を図る。

<工夫2>

課題プリントのシンプル化で集中力・達成感

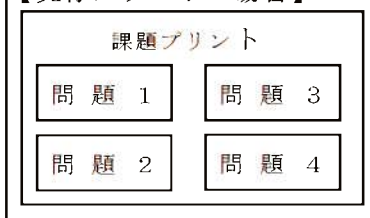
一枚の課題プリントに多くの内容を載せず、大事な事柄を一つ一つ学ぶようにする。

例)

1. 習得して欲しい内容を整理

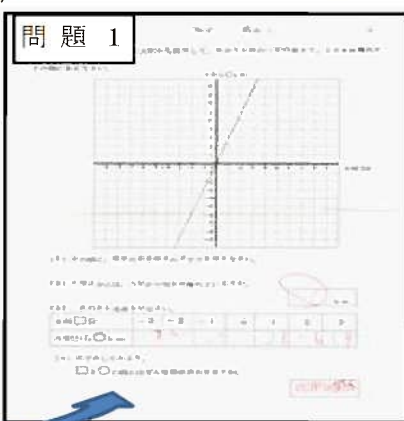
- ①点をプロットし、線をつなぐ
- ② x 、 y の変域を負の数まで拡大
- ③比例のグラフの特徴
- ④表からグラフと式をもとめる
- ⑤グラフから表と式をもとめる
- ⑥式からグラフと表をもとめる
- ⑦比例定数が負の数、分数の場合

【既存プリントの場合】



2. 習得して欲しい内容から1問作成。

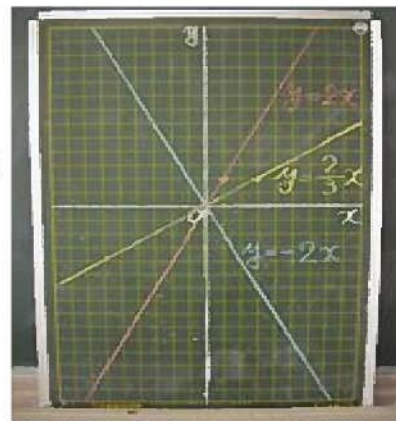
【本児が活用する一枚一課題オリジナルプリントの場合】



<工夫3>

板書の工夫でわかりやすさアップ

- グラフ黒板を利用する際は、視覚的にわかりやすくするため、チョークの色を変える。それに対応し、式や表の中の数字の色も同じ色で書き表す。
- 他教科の先生と連携し、ポイントを書く際は黄色チョーク、課題提示の際は板書する、板書しながら話をしない等を統一する。



指導の形態 教材等	算数 ～教科の補充学習～	障がい種 等	通級指導教室 LD・ADHD
--------------	-----------------	-----------	-------------------

授業の概要やよさ

- ・児童の困りや困難さに配慮して、毎時間の学習始め5分間で取り組む。
- ・具体物の操作を取り入れながら、スモールステップで繰り返し学習する。
- ・定着を図るために、定期的に振り返りを行う。

児童生徒の様子

- 小学校3年生
- ・たし算、ひき算は指を使って計算し、繰り上がり、繰り下がりの間違いが多い。
 - ・「大きい数のしくみ」の学習では、千万が〇こ、百万が〇こ…一が〇こなどの数の構成を理解できず、数字で表すことがなかなかできない。
 - ・漢数字を数字へ変換するときに、空位の0を忘れ、位の順番がずれても気がつかない。

目標

- 位の順番や数の構成の意味を理解することができる。
- 空位の0の意味を理解し、大きな数を確実に数字で表すことができる。

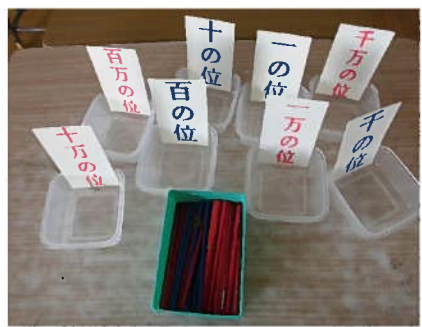


支援のポイント

～手作り教材～
「並べ替え位の部屋」



- ・右から順に、一の位、十の位、百の位、千の位…千万の位と「位の入れ物」を並べる操作を繰り返す。
- ・操作を繰り返す中で、一、十、百、千の並び方は万の位も一緒だということに気づく。



- ・千万が〇こ、百万が〇こ…十が〇こ、一が〇こなどの問題を読み、位毎に色が違う数え棒を位の入れ物に入れる操作を繰り返す。
- ・位の入れ物に数え棒が10本溜まると次の位の数え棒一本と交換して、十進法位取りの意味を理解するための操作に取り組む。
- ・位の部屋の10こが、左隣の位1この大きさの数であることを理解しやすくなる。

～手作り教材～
「固定式位の部屋」



- ・「千五百三万二百七十」などの漢数字を数字に変換する問題では、位の部屋に入る数字がない時は、0を入れるということをカードを操作しながら繰り返し取り組む。
- ・ノートに位の枠を描くなど、具体操作なしでも取り組む。

※具体物を活用した教材を作る。
 ※スモールステップで繰り返し学習する。
 ※定期的に振り返り学習を実施し、学習内容の定着度をチェックする。

指導の形態	国語（読む）「順序に気をつけて読もう」	障がい種	特別支援学級
教材等	～複数学年による小集団指導。おもちゃ作りを通して～	等	知的障がい

授業の概要やよさ

- ・順序に気をつけて読むことでおもちゃが正しく作れたり、遊べたりするなど、子どもにとって目的がわかりやすく意欲的に学習に取り組める。
- ・一次で[ジャンプうさぎ]、二次で[ロケットのおもちゃ]と二つのおもちゃを作る。二度繰り返し学ぶことで、学習の定着が図りやすい。

児童生徒の様子

- 小学校5年生男子A
 - ・知りたい内容が書かれているところは大体捉えているが、手順と気をつけることを読み分けることは難しい。
- 小学校2年生男子B
 - ・「はじめに」の言葉を見つけても、はじめに作るものを読み取ることが難しい。



目標

- 小学校5年生男子A
 - 「この時」などの言葉を手がかりにして気をつけることが分かり、おもちゃを作ることができる。
- 小学校2年生男子B
 - 「はじめに」「次に」など順番を示す言葉に着目して作り方の順番が分かり、おもちゃを作ることができる。

支援のポイント

- 教材の工夫～[ジャンプうさぎ][ロケットのおもちゃ]
 - ・割り箸や輪ゴムなど、児童にとって身近で手に入りやすい材料で作れる。
 - ・出来上がったおもちゃは、みんなで一緒に楽しめるものにして友だちとの関わりを大切できる。
 - ・おもちゃ作りという意欲を持ちやすい教材にすることで、読むことに対する目的意識が持ちやすい。



牛乳パックと輪ゴムで作る。ジャンプしたり、びっくり箱になったり【ジャンプうさぎ】する。

- 指導計画の工夫
 - ・一次で取り上げる〔ジャンプうさぎ〕に比べ、二次で取り上げる〔ロケットおもちゃ〕は用意する材料を多くし、作り方の順番を示す言葉や気をつける事柄を増やすなど難易度を高める。
 - ・二つのおもちゃ作りを通して学習することで、繰り返し学習する場面を設定でき学習の定着を図ることができる。

○テキストの工夫

- 低学年から高学年までの異年齢集団で学習するので、児童一人一人の実態に応じてテキストを作成する。
- ・単語を一つの言葉のまとまりとして音読できない児童には「分かち書き」にする。
 - ・ひらがなが多くなると文章が長くなり読みづらいので行間を広げて読みやすくする。
 - ・それぞれの児童の（漢字）読み書きの実態に応じて、ふりがなをつける。

○生活で使える力につなげる工夫

今後、学期末に生活単元学習で「がんばったね会をしよう」の単元を組む。好きな食べ物作りの活動を取り入れ、自分でレシピを見て材料や用具を準備し、作る学習を行う。

意味：文章において文節と文節の間を一文字空けること

指導の形態 教材等	国語（読む・書く） 「カードを使って（ひらがな・漢字）の学習をしよう」 ～児童の特性を生かした指導～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	--	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

意欲的な学習活動が展開されるよう児童の興味関心を生かした教材・教具を作成し授業を展開することで、楽しみながらひらがなや漢字の獲得を行う。

- ・作業的な活動を用いた文字指導
- ・カードを使った学習による漢字学習（読み）

児童生徒の様子

○小学校中学年女子A

- ・ひらがなを半数ほど読むことができるが、自分で文字を組み合わせることで単語を書くことは難しい。
- ・プリント学習はなかなかしようとしませんが、作業的な活動は好む。

○小学校中学年男子B

- ・1年生程度の漢字は、だいたい読むことができるようになった。漢字の書き取りと文中での漢字の読みを学習中である。
- ・一度にたくさんの課題を提示するとパニックになる。
- ・ゲームなどは長時間集中して取り組むことができる。

目 標

○小学校中学年女子A

ひらがなを組み合わせ、ものの名前（2～3文字）を作り、できたらマス目に書き移すことができる。

○小学校中学年男子B

カードに書かれた単語（動詞）を文中から見つけ、読むことができる。

支援のポイント

小学校中学年女子A

○教材・教具の工夫



<洗濯ばさみを使った教材・教具>

- ・50音を段ごとに色分けする等、色を手がかりにしてひらがな50音表から文字を選び、カードに書かれたものの名前を作る。
- ・ものの名前を構成する文字数がわかるよう、絵カードに文字数分のシールを貼る。

ポイント

作業的な要素を取り入れた学習

○学習活動の流れ

- ①指導者と一緒に文字を選び、洗濯ばさみを留める。
- ②一人で文字を選び、2文字のものの名前を作る。
- ③覚えたものをノートに書く。

小学校中学年男子B

○教材・教具の工夫



<ファイルを使った教材・教具>

- ・ゲーム感覚で学習できるよう、読めるようになって欲しい単語をファイルに1枚ずつ記入（左上写真）。インデックスで色分けしておき、右上写真のような5色のカードを児童が引く。出た色のカードと同じ色ページに記載された単語を読む。
- ・達成感もてるように、読めるようになった単語はファイルから抜き取り、教室後ろに掲示していく。

ポイント

ゲーム的な要素を取り入れた学習

○学習活動の流れ

- ①5色のカードを1枚引く。
- ②選んだ色カードと同じ色のインデックスの付いたページをファイルから10枚を選ぶ。
- ③単語（漢字を含んだ動詞）を読む。正解は裏に記載。
- ④文中の単語（漢字を含んだ動詞）を探して読む。

指導の形態	国語「助詞の指導」 ～ジェスチャーゲームを通して～	障がい種等	特別支援学級 知的障がい
-------	------------------------------	-------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・本事例は、助詞の指導を行った事例である。
- ・子どもの興味関心を持たせるため、ジェスチャーゲームを教材として取り上げ、楽しい雰囲気の中で学習を進めた。

児童生徒の様子

- A男：小学校5年**
- 作文や日記の中で助詞を間違えて使うことが多い。特に「に」を使う部分で「を」を使う。本読みでも助詞を飛ばしたり、間違っ
 - て読んだりすることが多い。
 - 2語程度の簡単な文を理解したり、話したりすることができる。
 - 見通しが持てると落ち着いて学習に取り組む。
 - 正解したことを自分で確かめることで意欲的に取り組む。
 - 字を書くことが苦手である。

目標

正しいことばを入れてジェスチャーを表す文を作ろう。(具体的な動作や場面を見て、適切な助詞を使って文を完成させる。)

支援のポイント

ジェスチャーゲームを教材として取り上げ、楽しい雰囲気の中で、以下の手順で、学習をすすめる。

《進め方》

- ①教師がジェスチャーゲームの出題者をする。
- ・助詞に意識を向けることができるように、問題のリストを提示しておき【写真1】、助詞を入れて答えさせる。難しい時は、2つの文字タイトルから選択させる。
 - ・**を** **に**等、答えのカードを用意しておき、できたら上に貼りつけて確認させる。【写真2】
 - ・正しい助詞を入れた文は、教師と一緒にジェスチャーしながら言って復習する。

【ジェスチャーゲーム：出題者の動作】



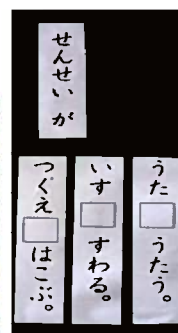
《椅子に座る》



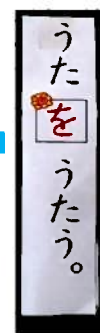
《机を運ぶ》



【助詞表】



【写真1】



【写真2】



【写真3】

②A男が出題者になる。【写真3】

- ・助詞の入った問題のリストを見ながら行う。教師が答えるときに、「トランポリン・？」と助詞の部分で悩んで見せたり、間違った助詞を入れて答えたりして、助詞を意識できるようにする。

③学習した文を表すイラストを見て文を書き、「助詞表」に貼り付ける。

- ・「助詞表」は、ジェスチャーゲームの解答を考える際の手がかりにも活用する。

指導の形態	英語「単語の理解」 ～使用頻度の高い基本動詞を覚えよう～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
-------	---------------------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

単語をなかなか覚えることができなかつた生徒に、聴覚・視覚の両面から支援をアプローチし、短時間で30個の語句を覚えさせることができた事例。

児童生徒の様子

- 1年生のころ学習した、基本的文型や単語は定着していない(書く、読む、話す)。
- 単語の記憶では、単語と意味だけを反復させても、ほとんど定着しなかつた。

目標

使用頻度の高い30個の基本動詞を覚えて定着させる。
(write、take、walk など)

支援のポイント

<支援の方針>

動詞を記憶させるために、聴覚刺激を学習指導に取り入れたり、視覚的教具を取り入れたりする。

<具体的な支援方法>

①30個の基本動詞に目的語をつけて、その意味が表す内容を具体的に示した。

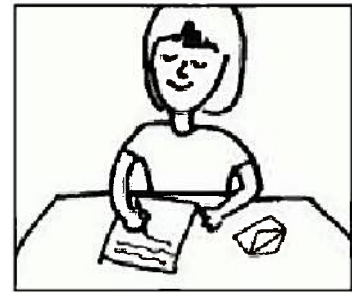
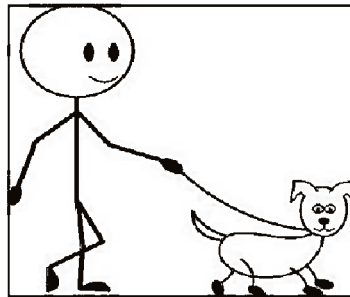
(・write → write a letter・take → take a picture など)

②語句が表す内容と、絵を組み合わせることでその意味を視覚的にとらえさせた。

③楽器(ギター)を使って、語句の発音と4つの和音を連動させて、教師の後について歌わせる。主要3和音を使って歌ができるのを利用する。熟語全体を一つのコードで行う。具体的には(G) write write write a letter (C) read read read a book (D) watch watch watch TV (G) study study study English のながれで進行していく。

④TVのモニターに30個の場面を一場面ずつ、アトランダムに提示しその、意味を表す語句を発表(英語で)させる。

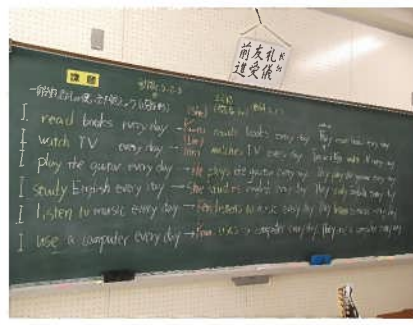
⑤絵カルタを使い、ばらばらに置かれた絵カルタの中から、教師が言った英語を聞いて、適する絵カルタを取る。



<基本動詞を表す絵>



<④テレビモニターを使った授業の様子>



<④発表場面での板書>



<②絵と語句が表す内容が組み合わせられた視覚支援>

指導の形態 教材等	英語「紹介ポスターを作ろう」	障がい種 等	特別支援学級 病弱
--------------	----------------	-----------	--------------

授業の概要やよさ

- ・ 自立活動の内容と関連させた学習活動を取り入れている。
- ・ 机上での学習を苦手とする生徒が、意欲的に取り組める教材や、活動の工夫をしている。
- ・ 学習に主体的に取り組める板書やノート、家庭学習の工夫を行っている。

児童生徒の様子

中学校

- 机上での学習は、集中力が続かず手遊びが多い。
- 学習にやる意味を感じないとやる気を示さない。学習に対して意欲が低い。
- 「わからない」と言って、教師にたずねることが多い。一人では学習が進まない。
- 短期的な記憶に留まり、長期記憶につなぐりにくい。

目標

- 3つの文型を覚え文章を作る等の課題に最後まで取り組む。
- わからない英単語を一人で辞書で調べる。

支援のポイント

辞書を活用

学習に自信が持てるよう、調べた単語に付箋をつけて努力の足跡を残す



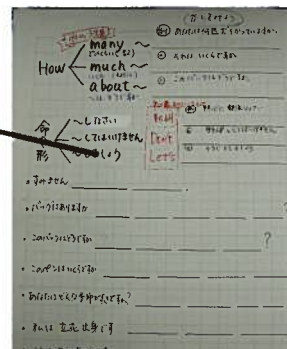
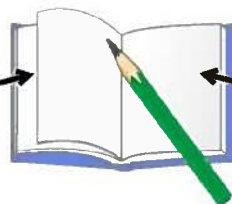
初めはインデックスを一緒につけ、引き方を学習。



ノート、板書の工夫

めあて

課題 解き方



その日の授業内容の問題プリントをノート右側に貼る。わからない場合は、ノート左側の授業記録の解き方を見る。

ノート左側に板書を書く。めあてや課題等の書き方は毎回同じにし、パターン化することで書きやすく、見やすいようにする。

自立活動とつなげて…

自分の気持ちを伝えることを自立活動で学習。そこで、英語の時間も英語で人と楽しく関わる場面を設け、学習に取り組んでいる。



『先生方の紹介ポスター』先生方へインタビューをし、机上で作成して活用へつなげている。

指導の形態 教材等	音楽「リコーダー」・教育活動全体を通した自立活動 ～長期的な見通しに基づいた指導の工夫～	障がい種 等	特別支援学級 自閉症・情緒障がい
--------------	---	-----------	---------------------

授業の概要やよさ

音楽に興味を持ち、みんなの前で自信を持って発表できるようにするために、自己肯定感を高める人的・物的な環境支援を行うとともに、視覚的な支援を取り入れたリコーダー指導を行った。

児童生徒の様子

小学校高学年男子

(音楽)

- 風船の割れる音や大勢の大きな声などを嫌がり、音楽の時間は耳をふさいでいた。そのため、リコーダーは全く演奏することができず、歌うことも嫌がる。(学校生活全般)
- 親しい相手に対しても軽く突いたり頭突きをしたりするなど自己(感情)表現が未熟。
- 手足の協調運動動作が未熟で作業療法を受けている。
- 集団の中に入ることができず、集会など同じ場所にいることも難しい。
- 1つの学習に集中できる時間は10～15分程度で、自信が無いことや分からないことには取り組もうとしない。

目標

○自立活動

- ・リコーダーや打楽器の演奏で、練習に20分間取り組んだり、みんなの前で最後まで演奏したりすることができる。
- ・成功体験を積み(絵楽譜を毎回1枚演奏する)、苦手なことにもチャレンジする(1曲演奏できるようになる)。

○音楽(リコーダー)

- ・リコーダーの指使いを覚え、校歌を終わりまで吹く。

支援のポイント

<直接的な支援>

- 失敗することへの不安を和らげる。
→ 教師の失敗談を話したり、失敗が成功につながる例を具体的に話す。
- 自己肯定感を高める。
→ 日々の進歩や努力を褒め、可視化する。
- 集団参加を促すための活動を取り入れる。
→ 本人なりの小さな目標を持たせ取り組ませる。
- 愛着形成
→ 母親的な存在としての関係づくりを行う。

○音楽：リコーダー

楽譜が読めない



○視覚化



「絵楽譜」により指の動きを視覚化する工夫

うまく音が出ない



○スモールステップ

曲のはじめから練習するのではなく、ある程度吹けるようになった音階だけの小節から練習を始める。

集中して取り組むための工夫

<間接的な支援>

- 情報の共有
→ 「相談支援ファイル」の活用
保護者、家庭への積極的な関わりを行う。
- 関係機関との連携
→ 定期的な情報交換
・市町村教育委員会
・市町村福祉課
・療育センター 等

自分に自信がない



○ゴールへの見通し

- ・吹けるようになった小節の楽譜を教室に掲示(努力成果の視覚化)し、達成感を持たせる。
- ・小節ごとに番号をふり、あとどの部分ができるようになれば完成するかを一目(数)で分かるようにする。

見通しを持ち、意欲的に練習に取り組むための工夫

指導の形態 教材等	体育「卓球バレーをしよう」 ～楽しく体を動かす支援の工夫～	障がい種 等	特別支援学級 肢体不自由
--------------	----------------------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

○題材目：「卓球バレーをしよう」

- ・動きに制限のある児童生徒が、ラケットを操作してボールを打つことができる。
- ・教具やルール工夫で、知的障がいや発達障がい等様々な障がいを持つ児童生徒が体を楽しく動かすことができる。

児童生徒の様子

- ・脳性まひにより左上肢と両下肢を動かすこと、一人で座ることは難しい。右手を体の中央から15cm程度動かすことができる。
- ・着替えや排泄は全介助。
- ・聞き取りにくい日常会話はできる。
- ・時間をかければ電動車いすを操作できる。



目標

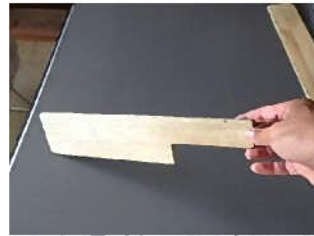
- ・同じチームの人に声をかけたり、チームのメンバーと作戦を立てたりする。
- ・自分の動きの中で体を動かし、ラケットにボールを当てる。

支援のポイント

○教具の工夫

・ラケットの工夫

- * 違うラケットを2種類準備し、使いやすい方を児童生徒が選択して使用する。
- * ラケットの材質はバalsa材を使うと加工しやすい。



・ボールの工夫

「卓球バレー協議規則」(HP参照)を参考に、ボールの中に金属球が入った緩やかに転がるボールを使用し、打ちやすくすることでゲームを楽しめるようにする。

ボールはネットの下をくぐって競技が行われる。



○ルールの工夫

「卓球バレー協議規則」を参考に、児童生徒の実態を考え、相手側に返すまでにボールに触れてよい回数を決めたり、人数が少ないときはダンボール等でコートサイドにボール落下防止壁を作ったりする。

○児童生徒に合わせた活動の仕方の工夫

ボールを容易に打ち返せたり、力の加減や相手の事を考える事が難しかったりする児童生徒には、ラリーを多く続けることを目的にしてその回数を競うなど、ルールや活動の仕方を児童生徒に合わせて変える。

指導の形態 教材等	美術「カラーテープを使って壁飾りを作ろう」 ～意欲的に表現活動に取り組むために～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---	-----------	-----------------

指導の概要やよさ

- ・表現活動に消極的で自分から活動しようとするものの少ない生徒が、楽しく意欲的に取り組めるように授業を構成している。
- ・様々な発達段階の生徒に合った表現活動が展開でき、出来上がりの作品も見栄えよく達成感がもてるような材料、表現活動の工夫をしている。

児童生徒の様子

中学校 1 年生男子
 ○ダウン症
 ○自分から描いたり、作ったりすることはほとんどなく、教師と一緒に声をかけたり、支援をしたりしながら作品を作り上げることが多い。
 ○美術の時間、設定した活動に取りかかっても、数分すると「終わり」と言ってやめてしまうことが多い。
 ○手先を使った細かい活動は苦手。

目 標


- おにぎりやバナナなど作りたいたいものに見立てながら、カラーテープをまるめたり、折ったりする。
- 作品を最後まで（箱に全部作品が入るまで）、完成させる。

注：「カラーテープ」
表裏、色の違った集めの紙テープ。折ったり、まるめたりするとそのまま形が変化する。


支援のポイント

<作り方>

①「カクン」と折るだけでできるよ。




②できた作品を小箱に入れる。



※「花」などテーマを設定して作成しても楽しい。

③作品を入れた小箱を大きな箱に入れていく。



- 導入の工夫 **わくわく！やってみよう！**
- ・出来上がりまでの手順を具体的に見せる。
 - ・主となる活動をする時には、「できそうだな」と思える活動をやってみせ
- 材料の工夫 **できそう！できた！**
- 細かい手先の活動が苦手な実態から、少しの力でも変化を楽しめるカラーテープを使うことにする。教師の支援がなくても形を色々に変化させることができる。
- 活動の仕組みの工夫
- 対象生徒の実態から、活動に見通しを持って取り組めるように、3つの活動
- ①作りたいたいものを決める
 - ②作る
 - ③作品を箱に入れる
- を繰り返す仕組みにする。
- わかりやすい！**
- 作品の工夫
- 何をどれだけすればよいかを視覚的にわかりやすい。

<出来上がり作品>



見栄えがする！終わりがわかる達成感。

※箱は空き箱に黒い紙を張る。
※カラーテープは画材屋にある。

指導の形態 教材等	日常生活の指導「排泄」 ～トイレへの抵抗をなくすために～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---------------------------------	-----------	-----------------

指導の概要やよさ

- ・トイレに行くことに抵抗のある児童生徒に、トイレへのプラスイメージを持てるようにした後、定時排尿が行えるようにするなど、児童の気持ちを大切にしながら段階的な指導を行った。
- ・年齢が上がるほど習慣を変える必要のあるトイレ指導は難しいとされる。そのポイントの一つとなるトイレへの抵抗をなくす工夫を指導に取り入れた。

児童生徒の様子

- 小学校5年生男子
- トイレが排泄する場所だと理解しているが、便器に座ることへの抵抗感が大きい。
 - 定時排泄の習慣はなく、紙パンツに排泄している。
 - 教師の支援を受けても便器での排尿はできない。
 - ズボンやパンツの上げ下ろしはおおむね一人でできる。
 - 排泄の予告（サイン）は見られない。時折、排泄後に教師に知らせることがある。

目 標

- 尿意を感じたときに、自分から教師に伝える。
- 布パンツで過ごし、便器に排尿をする。



支援のポイント

○**トイレのイメージを変える工夫**
トイレに誘うと座り込んだり、寝転んだりして嫌がる様子がある場合、まずはトイレに対して**プラスのイメージ**を持つことを大切にする。

- <トイレへのプラスイメージの工夫>
- ①便座に座った時に、ipad を使用して興味があるキャラクター等の動画を見る。
 - ②ウォシュレットの電源を切ってセンサーの作動音を消す。（音を怖がる様子がある場合）
 - ③冬には足元暖房を入れて下着を脱いでも寒さを感じないようにしたり、便座カバーをつけたりして、環境整備を行う。
 - ④排尿の強要はせず、便座に座ることができたら褒める。

○**教育課程の工夫**
1時間目に新たに日常生活の指導の時間を設定し、毎朝決まった時間（9：00過ぎ）にトイレに行く習慣をつける。

○**家庭や児童デイサービスとの連携**
学校と家庭で支援の方法等を細かに確認し合い、同様の取り組みを行うと習慣が付きやすい。排泄の成功回数が増えると紙パンツよりも布パンツを好むことが多い。どこでも誰といる時でもトイレに行けるように、相談支援ファイル等を活用して児童デイサービス等とも連携を図り、様々な場面での定着を図る。



○**尿意を伝える手立ての変更**
始めは本児にわかりやすいように**トイレカード**を使った合図にする。しかし、カードを使うと咄嗟の時に合図が間に合わないことがあるので、トイレに行く習慣がついた頃から、腰を「と・い・れ」と3回叩くサインへ替える等、どこでも容易に伝えられるよう工夫する。

指導の形態 教材等	日常生活の指導「清掃」 ～色々な場所をごみを残さず掃除できるように～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---------------------------------------	-----------	-----------------

指導の概要やよさ

- ・ 特定の場所だけをきれいにできるのではなく、将来も見据え、様々な場所をきれいにする力を身につける。
- ・ 掃除の仕方を決めたり、視覚的な工夫を入れたりするなど、生徒の特性に合ったわかりやすい工夫を行った。

児童生徒の様子

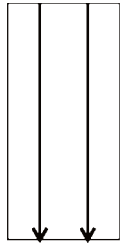
中学校2年生女子
 ○ 自閉症
 ○ 掃除をする時にまっすぐ一直線に掃いたり、目に見えるところのみを丸く掃いたり、掃き残しが多い。
 ○ 視覚的な支援があつたり、やり方を決めたりすると、落ち着いて最後まで取り組むことができる。

目標

○ ほうきを使って、廊下を隅々まできれいにする

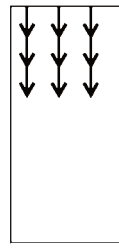
支援のポイント

< 指導前の様子 >



掃除をする時、左図のように、縦にまっすぐ掃いたり、拭いたりしていた。

< 指導内容 >



凸凹のある部屋、広いところなど、様々な場所を掃除する時、左図のような掃き方も覚えると、掃除をより効率的に、きちんとできると考え指導をした。

○ 掃除の手順 様々な場所に応用できる掃除の仕方を指導する。

① 隅から掃く。



② 後ろに下がりながら掃き残しがないように掃いていく。




③ 壁のところまできたら、クルンと反対をむいて、もう一方の隅も掃く。



※きれいにゴミが取れているか確認できるよう、初めはシュレッダー等見えるゴミを撒いて掃く。
 ※初めは廊下など掃きやすい場所、次第に凹凸のある部屋を掃除する。

④ そのままの向きで、再び、後ろに下がりながら掃き残しがないように、少しずつほうきをずらしながら掃いていく。



指導の形態	日常生活の指導「髪や身体を洗う」 自立活動・日常生活の指導「ボタン留め」	障がい種等	特別支援学級 知的障がい
-------	---	-------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・細かいステップを組んで、「髪や身体を洗う」「ボタン留め」に取り組んだ事例。
- ・A児の事例は、書かせる活動や自分で判断する活動を取り入れている。
- ・B児の事例は、生活につながるように段階的な指導を行っている。

児童生徒の様子

○A児：小学校4年

- ・「○○くん、家で髪を洗う様子を教えて」という質問に対して、髪の毛を洗う動きをするが、同じところを何度も洗う様子が見られる。
- ・「体を洗うのは？」の質問には、手で体をこする動きをするが、腕だけをこすって「終わり」と言う。

○B児：中学校3年

- ・指を使った細かい作業が苦手なため、制服のボタンをマジックテープに替え、着脱しやすいようにしている。

目標

○A児（髪や身体を洗う）

- ・宿泊学習で手順カードを見ながら体や髪の毛を洗うことができる。

○B児（ボタンを留める）

- ・カーディガン等、ボタンのついた服の着脱ができる。

支援のポイント

○A児…以下の手順で指導を行う。

- ①手順カードをみて流れを知る…絵カードを見せ「何をしているところ？」と一枚ずつ確認し、絵と同じ動きをしてもらいながら動作を書く。



- ②タオルを持ち、カードと同じ動きを順番におさえる…マットの上にお風呂場を設定し、1枚ずつめくりながら洗う箇所の確認をしてタオルでこする。

- ③カードを見ながら1人で動作をする。

○B児…以下の手順で指導を行う。ステップ1、2は、留めはずしの技能を獲得するために自立活動の時間で指導を進め、その後、実際の日常生活の場面の中で指導を進める。

【ステップ1】 ⇒ 【ステップ2】 ⇒ 【ステップ3】



○ボタンを小さくする

手先の細かい作業が苦手なため、遊びの要素を取り入れ、ボタンは順番に並べず、ランダムに縫いつけ、Aさんが自分の好きなどころから留められるようにした。



○ボタンに慣れる

最初は大きいボタンをやわらかく、扱いやすいフェルトにつけ、穴にも色をつけて留めやすいようにした。



○服のボタンをとめる

実際の服で練習をする。最初は、着ずに机に置いた状態でボタンを留めたりはずしたりした後、実際に着た状態からボタンを留める練習をした。

指導の形態	日常生活の指導 ～朝の会～	障がい種等	特別支援学級 知的障がい
-------	------------------	-------	-----------------

授業の概要やよさ

- 朝の会で、一人一人を生かすという立場で、全員が活躍する場面を設定した事例。
- 各教科の内容を意図的に取り込み、計画的に指導を進めている。

児童生徒の様子

- 1年生：A男 ○3年生：B男
○4年生：C男 ○6年生：D男
- <A男> エブロンを持って帰るか確認をする日が多く、曜日の認識が薄い。
<B男> 漢字を覚えるのが苦手、交流クラスへの忘れ物が多い。
<C男> ほぼ支援学級で過ごす。給食は好きだが、牛乳や野菜が苦手。
<D男> ボーダーラインで、社会のことにも関心を持っている。

目標

- A男：日にち、
天気調べ
B男：気温、日
課表調べ
C男：健康観察、
献立調べ
D男：ニュース
調べ

支援のポイント

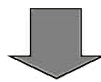
★A男：月や日付、曜日などの暦の理解を深めたり、天気
の文字をひらがなで書い
たりすることができる。

- ・カレンダーで今日の日にちや曜日を
確認し、ワークシートに記入する。
合わせて「昨日」「明日」の日にちも
確認する。
- ・「晴れ」「くもり」「雨」のワーク
シートを用意しておき、自分で天気
を確認しカードを選び色塗りする。
また「はれ」などの文字もイラスト横
の枠に書く。

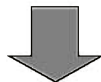


朝の会

A 日にち、天気調べ



B 気温、日課表調べ



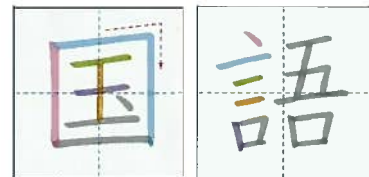
C 健康観察、献立調べ



D ニュース調べ

★B男：教科名を漢字で書く
ことができる。

- ・「算数」「理科」「社会」など、
毎週一つの教科名を書き順を示した
ワークシートで練習してから、黒板に
教科名のカードを貼り4人分の日課
表を仕上げる。時間割を見て、見通
しを持って行動できるように意識さ
せる。



★C男：今日の献立や、使われている食材
(野菜)を調べ、野菜に関心を持
つ。

- ・献立をワークシートに書き、野菜は白
黒の野菜イラストから自分で選び、
色塗りをしてワークシートに貼り、
名称も書く。
- ・完食した献立にはがんばりシールを
貼り、意識を高めるようにする。

★D男：どんなニュースがあるかを調べ、
社会の出来事や、日本の県名や場
所に関心をもつ。

- ・パソコンでニュースを調べ、出来事
の見出しと県名を白地図のワークシ
ートに書く。また、その都道府県
の場所を、地図帳で調べて白地図
に色を塗る。朝の会で発表した後
に、詳しい内容を教師が説明する。

指導の形態 教材等	生活単元学習「買い物名人になってお買い物に行こう」 ～ねらいにあった単元活動の工夫～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

実態の異なる複数の児童に対し、同一教材で指導する際の単元の流れを工夫。

- ・一人一人の児童の実態に合った指導目標・内容の設定
- ・習得したことを生活の中で役立てられるための学習活動の設定

児童生徒の様子

○小学校2年男子A
お金をもった経験がなくお
金に対しての興味が無い。
○小学校4年女子B
買い物をした経験は無いが、
金銭の分別はできる。
○小学校5年男子C
定価通りの代金をもって買い物をす
る経験をしており、お金には親しん
でいる。金種の分別から等価関係は
だいたい理解できる。



目標

- 小学校2年男子A
- ・金種（十円・五十円・百円・五百円硬貨）を聞いて、色々な種類の金種から選び取る。
 - ・カードと同じ品物を選び、レジでお金（五百円硬貨）を支払う。
- 小学校4年女子B
- ・値札を読んだり簡単な金額に合わせて代金を出したりする。（○百△+□円 ※○、△、□は1～4）
 - ・買い物に必要な道具（ポシエット、財布、ハンカチ、ちり紙）を一人で用意する。
- 小学校5年男子C
- ・少し多めの代金（○百△+□円の支払いで△+1または□+1の多め）を支払い、おつりがいくらか計算し、ちょうどのおつりをもらう。
 - ・品物が見つけれない時に店員に尋ねる。

支援のポイント

○学習の流れ →それぞれの児童のねらいにあった単元活動を設定

	1次 「買い物ごっこをしよう」	2次 「お金について知ろう」	3次 「買い物名人になろう」
A児	・ 買い物を興味を持ち、金銭が必要なことがわかるよう、買い物ごっこから自分で進んで活動する。（A児B児）	・ 「金銭絵カード」と硬貨のマッチングや、同じ種類の硬貨集め、財布からの出し入れ等ができる。 ・ 教師と一緒にレジで支払いをする。	カード（広告の切り抜き）と同じ品物を選びレジまで持って行くことや、財布からお金を出して店員にお金を渡すこと、品物やお釣りをを受け取り財布にしまうことができる。
B児	・ 品物の定価を確認し、支払うなど、活動を進める。（C児）	・ 教師と一緒に値札を読む。（○百△+□円、△+□円） 「お金ボード」を使い、1～3種類の硬貨（一円・十円・百円硬貨）からちょうどのお金をそろえる。 ・ メモを見ながら買い物に必要な道具を準備する。	・ 一人で値札を読む。（○百△+□円、△+□円 ※○、△、□は1～4） ・ 「お金ボード」を使わずに、1～3種類の硬貨（一円・十円・百円硬貨）からちょうどのお金をそろえる。 ・ 買い物に必要な道具を一人で準備する。
C児		・ 「等価ボード（百円硬貨1枚＝十円硬貨10枚、十円硬貨1枚＝一円硬貨10枚）」を使って、多めの代金を机上でそろえる。 ・ 店員に品物の売り場をたずねる時の言い方を教師と一緒に考える。	・ 店員になり、レジでおつりを正確に用意する。お客の時、おつりの正誤が判断できる。 ・ 品物が見つけれない時に店員にわかるように尋ねることができる。

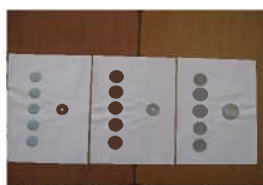
○場の設定と準備物

「金銭絵カード」



金種を1対1対応で確認しながら弁別する

「等価ボード」



「一円硬貨5枚＝五円硬貨1枚」等価関係を視覚的に確認

「お金ボード」



ちょうどのお金を金種ごとに並べて作る

指導の形態 教材等	生活単元学習「ありがとうプロジェクト」 ～生活上の課題をもとにした単元～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

学校生活の節目にあたる時期に、生徒の「～したい」という思いを総合的にとらえた単元を設定し、生徒自身が目標や見通しを持ち、単元の活動に積極的に取り組むような活動の工夫を行う。

児童生徒の様子

- 中学生
- ・集中することが苦手。
- ・手順が分かれば、自分一人でも活動することができる。
- ・言葉にして自分の気持ちを伝えることが苦手。
- ・興味のあることに対しては、図鑑等で調べようとする姿が見られる。



目標

- ・ガトーショコラのレシピを読み、手順に沿って作る。
- ・ありがとうの気持ちを入れたメッセージカードを書き、相手に渡すことができる。
- ・レシピに書かれた材料（分量）を2倍して計算し、材料を正しく量り、準備する。

支援のポイント

話し合い活動

「お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝えよう。」

「先生方が喜ぶパーティーを開きたい。」

＜おいしいものを作ってあげたい＞

期 日：2月
参加者：男性多
「ガトーショコラを作ろう」
インターネットHPの写真・動画・レシピ

- 作り方を調べよう
写真やレシピを見比べながら、作る手順を確認する。
- ・写真や説明文を入れたオリジナルマニュアルを作る。(国語的活動)
- ・調理器具を確認準備する。

- 材料を準備しよう
レシピを読み必要な材料・分量を準備する。
- ・レシピに書かれた材料（分量）を2倍して計算、準備をする。(算数的活動)

- (材料)買い物に行こう
- ガトーショコラを作ろう
・レシピを読み、手順に沿って作る。



＜手紙を渡したい＞

「きれいな飾りや思い出の写真が
付いたメッセージカードを作ろう。」

- 写真を選ぼう
思い出の写真を行事ごとにカテゴリー分けし、必要な写真を1枚ずつ選ぶ。
- メッセージを書こう
選んだ写真を説明する文章とお礼の言葉をメッセージカードに書く。
(国語的活動)

- メッセージカードを飾り付けしよう



生活単元学習は、児童生徒の生活上の諸課題や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することにより、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習していきます。
この「ありがとうプロジェクト」では、生徒の「感謝の気持ちを伝えたい」という思いをもとに、様々な学習活動をつなげています。

指導の形態 教材等	生活単元学習 ～他教科との関連～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・年間指導計画作成の際、生活単元学習の課題と数学などの内容とを関連させる。
- ・知識と実際に理解した内容を使う場面がリンクされるため、生徒理解も深まり、実生活につなげていくことができる。

児童生徒の様子

○生活の中で使われる数字の単位（特に金銭・量・重さ）が、視覚的には理解できることもあるが、混乱することが多い。



目標

○校外学習で、一人でちょうどのお金を出し、買い物ができる。

支援のポイント

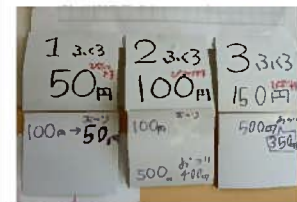
<個別の指導計画～他教科との関連～>

※中学校個別の指導計画例

教	月	4月	5月	6月
数 学 学 習	目 標	簡単な計算や数の認識等、日常生活で必要な数学的能力を養う		
	学 習	《金銭》硬貨や紙幣を使ってちょうどの金額をそろえることができる・ ○集合数・四則計算については、年間を通して各題材の中で適宜扱うものとする		
	○…	○…	○複数の金種で作った金額を読んだり言われた金額をそろえよう	
	○…		○販売する人買う人になり、ちょうどのお金の計算や簡単なおつりの計算をしよう	
生 単	目 標	学校行事を楽しむ、積極的に参加できるよう興味関心を深める 各教科で学習したことを実生活で活かせるようになる。		
	学 習	○…	○…	○買い物に行こう ○買うものの支払い方お金のそろえ方を知ろう
作 業	目 標	…		
	学 習	○…	○…	○たまねぎの収穫をしよう…
	○…	○…	○…	○…

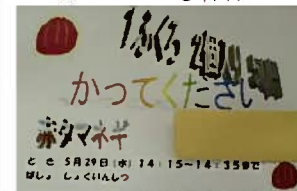
【数学で】

- 模擬学習にて販売の練習をする。
- ・ちょうどのお金の場合
- ・複数個売れた場合
- ・おつりのある場合
- ☆ヒントカードの用意



【作業学習で】

☆ポスターも作成



お金を扱う際のポイント

【違ったパターンで学習する】

<お金ボードの利用> <パソコンによる練習課題>



※集中力も増し、実際場面への対応も柔軟になる。

【違う時期を工夫する】

<はがきの購入：生単> <はがきの作成：国語> <量る：数学>



※他教科と関連させることで、単位や繰り上がりなどで、混乱をきたすことが少なくなり、理解しやすい。
(金銭・長さ・重さ・温度・広さ・容量・時計・暦等)

指導の形態 教材等	生活単元学習「社会見学に行こう」 ～電車の利用を通して～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---------------------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・将来の生活につながりやすい電車の利用が一人でできるようにする。
- ・電車の乗り方の手順をいくつかの活動に分けて指導し、確実にできるようにする。
- ・スケジュールを見れば取り組めるという生徒の得意な姿を生かす。

児童生徒の様子

- ・自閉症
- ・駅の改札を通る時など、教師が働きかけるまでじっとしている。
- ・給食など日々繰り返される場面では、自分から準備をする。
- ・間違いを何度も指摘されると、腕をつねるなどの他害が見られる。

目標


○改札を通るときに、手順表を見て切符を準備し、一人で改札を通ることができる。

支援のポイント

○生徒のよさを生かした指導
 <得意なこと> 3つ程度の手順の活動であれば、手順表を見ながら自ら取りかかり、活動できる。

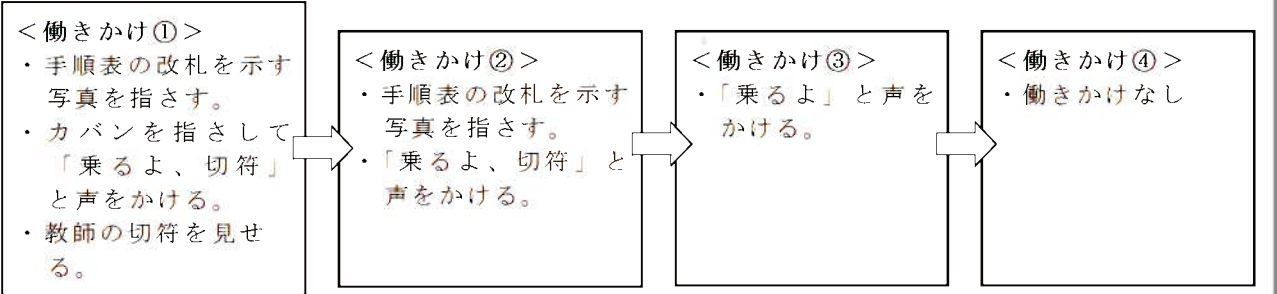
- <3つの手順>**
- ①改札でカバンから切符を取り出す。
 - ②切符を駅員に渡す。
 - ③切符を駅員から受け取る。

<手順表>
 手順を理解するため、改札、切符の受け渡しの画像と文字を記入している。



- 手順表のポイント**
- ・校外で立ったまま使えるように、クリアファイル式の名詞入れを使用。
 - ・今後の様々な外出場面で活用できるよう、場面を限定せず、手元が中心に写った写真を活用。

○働きかけを段階的に減らしていく工夫
 間違ふことを嫌がるので、教師の示範、声かけ、指さし等の働きかけを段階的に減らしていった。



指導の形態 教材等	自立活動「粗大運動」 ～児童の特性に配慮した指導～	障がい種 等	特別支援学級 肢体不自由
--------------	------------------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・広い運動場を歩いたり、施設・遊具を使ってバランス感覚を養い、筋力の維持・向上を図る。
- ・股関節の伸展や屈曲を楽しみながら効果的に指導できるようにする。
- ・動きの変化を体験していく中で、体の動かし方や体を動かすために必要な方法を感覚的に学ぶことができる。

児童生徒の様子


- ・上肢麻痺のため、両手の連動した動作や、細かい指の運動、力加減が困難である。
- ・足首固定用のサポーターとシューズを着用している。
- ・言葉によるコミュニケーションができない。

目標

⇒ 日常生活の中での動作（体操服の着脱（教師の支援あり）、給食室まで一人で歩く、タオルをフックにかける、頭上の置かれた帽子を取る等）を、自らの手足を動かしてやり遂げたり、物を乗り越えて（15cm程度の高さ）移動したりする。

支援のポイント

①足の踏み込み、踏ん張りの力
築山（人工的に作った山）に登ったり下ったりすることで、足の踏み込み、踏ん張りの力をつける。



②かがむ姿勢
鉄棒をくぐることで、手で鉄棒を確認してかがむ姿勢を身につける。



③手の使い方、移動
体育館のスロープの手すりを持ち、障害物をまたぐことで、手の使い方、体の移動の仕方覚える。



④体のバランス
体育館外の階段を上り下りすることで、体のバランスのとりかたを覚える。




⑤手足を使いながら移動
タイヤを乗り越える。頭を下げて土管の中を這って降りたり滑り台の階段を登り、滑って降りたりして、立ったり座ったり、四つん這いになったりして体の位置を変えて手足を使いながら移動することができるようになる。



⑥足あげ
ブランコで、足をあげる意識を持ち、体の動きを感じることを練習をする。



⑦上を見上げる
吊り輪に手を伸ばすことと、上を見上げることや手を上に伸ばす感覚を身につける。



※児童生徒の各関節の可動域（動かすことが可能な角度）をあらかじめ把握し、体調に留意して行う。
※関係機関と連携を図りながら行う。

指導の形態 教材等	自立活動 ～個に応じた支援ツール（ICT等）の活用～	障がい種 等	通級指導教室 LD・ADHD
--------------	-------------------------------	-----------	-------------------

授業の概要やよさ

- ・ 聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力において、一部又は複数の著しい困難がある場合には、それが国語や算数、数学、英語等の各教科の学習に影響することがあるため、児童生徒のつまずきの状態に応じた教科の補充指導が必要となる。
- ・ 通常学級での授業にスムーズに参加できるように、自立活動を授業の「核」に据えた教科の補充学習の授業の組み方や、個に応じた「支援ツール」の工夫、開発を行った。

児童生徒の様子

- 小学校2学年男子
- 注意が長続きせずに、問題がちょっとでも難しいと感じると取り組む前からあきらめる。
 - 聞いただけでは内容を理解することが難しいため、具体物等を用いての学習が必要である。
 - 数概念の発達が未熟で、数のみの計算は難しく、すぐにパニックになる。

目標

- 自立活動
 - ・ 新しい課題に取り組み、最後までやり終えることができる。
 - ・ 画面に集中して（画面を良く見て）、同じ動きが素早くできる。
- 算数
 - ・ iPadの画面を見ながらちょうどのお金（○百△+□円、○・△・□は0～9。五・五十・五百円硬貨を使用）をそろえることができる。

支援のポイント

個の困りに応じた支援

自信を持ち、新しい課題に取り組むための支援

○ ビジョントレーニング



○ 見通しを持たせるため工夫



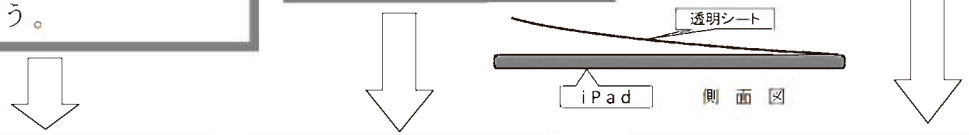
○ ICT 支援機器



授業の始めの5～10分間を「集中力を高める、達成感を高める」ことをねらいとし、視覚認知トレーニング（体を動かす課題、集中力を高める課題）を行う。

在籍学級よりも少し先の学習を行うことで、つまずきが予想されることや苦手なことへ対応する。

iPad + 透明シート
「お金を位マスに自由に動かせる視覚的な良さ」と、「iPadの画面に直接数字をかける良さ」を組み合わせた教材



毎回授業の始めに行うことで覚醒レベルがアップした状態での指導が可能。

見通しを持つことで、落ち着いて授業に臨むことができる。

通級指導で利用した学習ツール（児童の困りを支援するICT機器）を通常学級の授業でも活用する。

指導の形態 教材等	自立活動「感情」 ～自己コントロールのための指導～	障がい種 等	特別支援学級 自閉症・情緒障がい
--------------	------------------------------	-----------	---------------------

授業の概要やよさ

衝動的でブレーキがきかなかったり、怒ることや暴言をはくことで注目を得たり、思うように周りを動かそうとする児童生徒に対して、イライラした時の対処法を学習し、自己理解や協調性を養う。

児童生徒の様子

- 「友達とぶつかる」「友達から注意される」「イガイガ言葉を言われる」とたたき、けるの行為に及ぶ。
- 分からないことがあると、「友達にちょっかいをだす」「物にあたる」「家に帰る」等の行動に出る。

目標

- 絵カードをもとに、自分の感情の変化に気付き、クールダウンするなどして落ち着くことができる。
- ロールプレイ等により、困難が予想される場面への対処法を事前に学習し、トラブルを避けることができる。

支援のポイント

<イライラしたときの気持ちを知ろう>
○イライラするのはどんな時? → ○体はどう変化する?

- ◆嫌なことを言われたとき
(「ばか」「くそ」「死ね)」
- ◆蹴られたとき
- ◆急に注意されたとき

⇒

- ・心臓がドキドキ
- ・頭が痛くなる
- ・お腹が痛くなる
- ・体が固くなる

<気持ちを色であらわそう>

※青になったら、たたいたり、けったりしてしまう。

ポイント①
イライラしたときの状況を具体的に想起させ、その時の感情・身体の変化と結びつける

ポイント②
イライラするときの状況を色で表現する（視覚化）

支援の工夫①
<トラブル回避のために>

経過を観察し事前にトラブルを回避する。トラブル発生の経緯は具体的に把握する。
「いつ、どこで、だれと、どんな」

先行刺激

行動

後続刺激

支援の工夫②
<イライラしないために>

適切な行動のための練習をする。

- ・ロールプレイ
- ・SST

支援の工夫③
<感情をコントロールするために>

思いどおりにならなくてイライラしたときには、どうしたら落ち着くのか方法を探し、実践させる。

- ・クールダウン
- ・おまじない（心の安定）
- ・感情（色・絵）カード

感情のコントロールは授業の時だけで身につけられるものではありません。子どもが同じような場面に入った時に、自分の感情を知ることができるように、教師が語りかけをしながら、自分でコントロールできるようにしていくことが大切です。

指導の形態 教材等	自立活動「最後まで勉強しよう」 ～注意の持続の工夫～	障がい種 等	通級指導教室 LD・ADHD
--------------	-------------------------------	-----------	-------------------

授業の概要やよさ

- ・情緒が不安定で、授業中でも話したり動き続けたりする児童に、最後まで課題に取り組む指導を行う。
- ・障がい特性に配慮し、本人の得意な面を生かす工夫を指導に取り入れる。

児童生徒の様子

- 小学校3年生A
 - ・自閉症スペクトラム
 - ・常に追い立てられるようにずっと話したり、動いたりしている。
 - ・元気よく活動していたかと思うと些細なことで泣きじゃくるなど、情緒が安定しにくい。

目標

- 自立活動
 - ・席について最後まで課題に取り組むことができる。

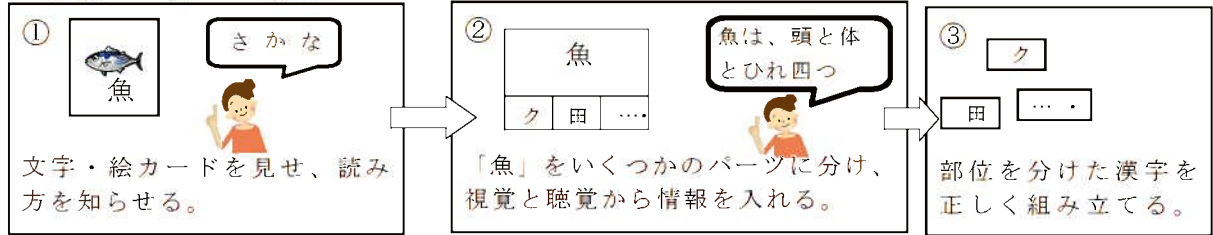
支援のポイント

- 1単位時間の活動の仕組みの工夫
 - 授業に見通しを持って意欲的に取り組めるように！
 - 活動の仕組みを固定化する。
予め A 児に必要な課題をいくつか用意しておき、その中から A 児が選択することで1時間の授業プランを立てる。
 - 気持ちの切り替え
好きな課題の時、次の課題に取りかかることが難しい。そのため、タイマーをセットしておきブザーがなったら次の活動を行うようにする。

○働きかけ方の工夫

- 常にゆっくりしたペースで関わったり、A 児が答えやすい質問をしたりして、活動のペースが落ちるよう配慮する。
 - 書くことが苦手だが、聞いたり、話したりすることは得意なので、視覚情報とともに必ず聴覚からの情報も入れる。
- 常に話したり、動いたりする A 児なので
- A 児の得意なところを生かして

魚の漢字を覚える場面で…



指導の形態 教材等	自立活動「構音の指導」 ～「カ」行の発音指導のポイント～	障がい種 等	通級指導教室 言語障がい
--------------	---------------------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・構音点法、舌押さえ法、絵カード、音読などの指導方法をいくつか準備し、それぞれ短時間ずつ扱い、飽きないで学べるようにした。
- ・S Tの言語訓練や、web サイト国立特別支援教育総合研究所の資料を参考にし、本児の実態に合う教材を使用した。

児童生徒の様子

- 小学校3年男子A
- ・年度当初は、「カ」「タ」「サ」行全般にわたって構音障がいが見られる。(さかな→さたな、ほうき→ほうち、テレビ→エレビなど)
 - ・「タ」「サ」行については半年ほどで改善できたが、「カ」行についてはなかなか改善できない。

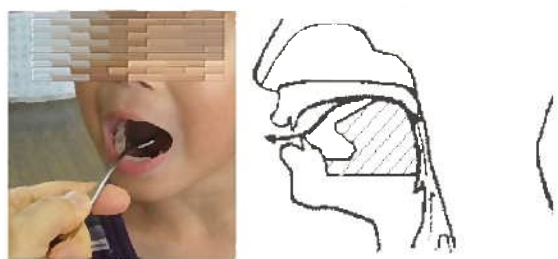


目標

- 「カ」行の構音障がいの矯正
- ・「カ」と「サ」、「キ」と「チ」など、同列の置換による発音の誤りを改善する。
 - ・発音器官の運動機能や聴覚弁別力を高めるとともに、正しい構音方法が分かる。

支援のポイント

- 全体的な工夫
- ・「カ」行の口形を教室に常掲するとともに、鏡で自分の口形を見ながら行う。
 - ・構音点に舌がうまく付かない時は、スプーンを使った舌押さえ法を取り入れる。



○学習活動の工夫

1. うがいをしよう
顔を上に向けて、奥舌でしっかり水を止めてガラガラうがいをする。
2. どの音かな
よく聞いて、先生がどの発音をしたのか文字カードを選び取る。
※誤ったカードを選んだ場合は正しい発音を復唱させる。うまくいかないときは、スプーンで前舌を押して奥舌を持ち上げ正しい発音を誘導する。
3. 写真と同じようにやってみよう
「か」行の口形の写真と、鏡の自分を見比べながら、舌の位置に気をつけて発音する。
※発音しやすい、か→こ→く→け→きの順番に指導する。
4. 絵カードを読もう
※発音しやすい順番、語頭→語尾→語中の順に扱う。(からす、すいか、みかん等)
5. 文を読んでみよう

指導の形態 教材等	自立活動「構音の指導」 ～「サ」行の発音指導のポイント～	障がい種 等	通級指導教室 言語障がい
--------------	---------------------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・ストロー法を取り入れ、舌の感覚と息の出し方でS音を出すコツをつかませる。
- ・舌の運動や口の体操に加えて、最後に自由会話の時間も確保することで、楽しく通級できるようにした。

児童生徒の様子

○小学校1年男子A
 ・S音（サ・ス・セ・ソ）がK音（カ・ク・ケ・コ）に置換している。
 ・上手になりたいという気持ちがとても強いため、練習に対して意欲的である。単音では改善されつつあるが、前後の音に影響されて誤って発音することが多い。

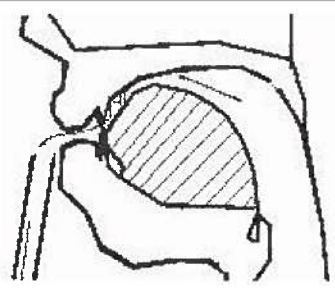


目標

○「サ」行の構音障がいの矯正
 ・S音とK音の置換による発音の誤りを改善する。
 ・発音器官の運動機能を高めるとともに、正しい構音方法が分かる。

支援のポイント

- 全体的な工夫
 ・ストロー法により、S音の出し方を練習し、うまくなってきたらストローを静かに引き抜いていく。まずは、ストローを使ったS音から練習し、S音がうまくなった後で発音しやすい順番に行っていく。（ス→ソ→サ→セの順）
 ・モデリングのために、教師と並んで鏡の前で行う。
- 学習活動の工夫



1. 舌の運動
舌の上下左右、上唇なめ、下唇なめ、舌まわし、舌打ち、舌ならし
2. お口の体操
50音の口形表を読む、早口言葉
3. ストローを使って
 - ①ストローを舌先と上歯茎でくわえて、ストローの穴だけから息を出す。
※手のひらを当てることで、風が前から出ていることを確認させる。
 - ②うまくなったら、徐々にストローを抜いて同様に行う。
 - ③「スーウー」という具合に、息を出した後に後続母音を誘導する。
 - ④だんだん速くして、「スウー」「ス」を誘導する。
※舌を引っ込めてしまうと「ク」になりやすいので注意する。
4. 絵カードを読む
語頭→語尾→語中の順に扱う。（スキー、バス、ポスト等）
5. 文を読んでみよう
すきなさしみをスーパーのそばのお店で3300円でおかあさんが買ったよ。
6. お話しよう
「先生の名前」「マラソン大会」「給食」等、テーマを決める。

指導の形態	自立活動～課題に最後まで取り組む、指先を上手にを使って、字などを書く等～	障がい種等	特別支援学級の知的障がい
-------	--------------------------------------	-------	--------------

授業の概要やよさ

1時間の授業中に、児童生徒の学習上・生活上の困難を解決するための指導を複数組み合わせ合わせて取り組んだ事例。

児童生徒の様子

- 「絵カード」提示で、自分がすることを理解する。
- 「書く」活動をやりたがらない。
- 鉛筆はうまく持てるが、なぐり書きである。
- 「できん・やって」と言って、すぐ諦める。
- マルとバツは分かっているが、他の線や図形は理解できていない。
- 給食の準備や当番（牛乳とストロー配り）が嫌で、積極的に取り組めない。
- ストローを配る時に、決まった順序はない。目に入った順にストローをトレイに置くことができる。

目標

- 【課題1】
- 見通しを持って45分間の時間いっぱい学習することができる。
- 【課題2】
- 鉛筆の練習：丁寧に縦線・横線・斜め線を書いたり、いろいろな図形や線を書いたりすることができる。
- ストローわけ：ストローを並べて容器に入れる等、スムーズに取り組むことができる。

支援のポイント

【課題1】

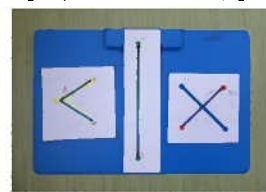
- ・椅子に座って机できちんと「勉強」をすることを認識している。
- ・「今日の学習」のスケジュールボードに、課題学習を行う自立活動（45分）のスケジュールを貼り、終わったらカードを取り外す仕組みで行う。
- ・課題数は1つから始め、学習スタイルに慣れると、課題を増やす。
※絵カードを見て学習内容を確認することができる。



【スケジュールボード】

【課題2-①：鉛筆の練習】

- ・直線、山、バツ、曲線の溝シートを使って、「上手に書ける」「できた」という成功体験を積み重ねる。
- ・徐々に、アンパンマンやドラえもんなど、溝シートを組み合わせてできるキャラクターを書く。
- ・溝シートで線を書く応用として白紙に自由に書く時間を設定し、教師とのやりとりを楽しみながら認知と操作、コミュニケーションの面から指導を行う。（ひらがなや図形につなげるため、教師が書いた点と点をつなぐ指導をやりとりを楽しみながら縦線は木、横線は道、斜め線はすべり台に見立てて行う。）



【溝シート】

※学習をしたプリントに穴を開けファイルに綴じる作業を、少しずつ一人でさせ、やり遂げることができるよう支援する。

【課題2-②：ストロー分け】

- ・連なったストローをはずす時や並べたストローを容器に入れる時など、両手を使った活動が、スムーズに行えるように、繰り返し取り組む。
- ・活動に意欲が持てるように、配る人の写真を貼ったシートにストローを配ったり、ストローさしの容器に入れたりする活動を取り入れる。



【配る人の写真を貼ったシート】



※ストローを数える（1～6）指導（算数）も、配慮的に行っている。

指導の形態 教材等	自立活動「落ち着いて過ごそう」 ～気持ちのコントロール～	障がい種 等	特別支援学級 自閉症・情緒障がい
--------------	---------------------------------	-----------	---------------------

授業の概要やよさ

- ・視覚的な支援（カードやイラスト）や保護者連携を行うことで、中学校の活動に見通しを持って参加し、忘れ物がなく学習に取り組めるようにしている。
- ・不快な気持ちになった時の対処の仕方を学ぶことで、集団生活に落ち着いて参加できるようにしている。

児童生徒の様子

- 中3
- 示された提出物がわからず違うものを提出したり、授業の準備物がわからず忘れ物をしたりすることが多い。
- 気に入らないことがあると、唸り声をだして感情を表すことがある。
- 集団行動が苦手で、初めての場所は落ち着かない。



目標

- 学年行事、初めての活動等の場面で、日程に沿って活動することができる。
- 日程変更、人との関わり等の中で気持ちが不安定になったとき、気持ちを切り替え、落ち着いて過ごす。

支援のポイント

『行事などの日程の伝え方』



自然教室（集団宿泊学習）の時は、

活動に見通しをもち、落ち着いて過ごせるように、しおりの日程表に活動や場所を示した写真やイラストを加える。

『不快感をあらわしたとき・・・ストレス発散リスト』

「本人」「教師」「保護者」の3者でリストを作成。不安定時にリストから選択し気持ちの切り替えを図る。



(例)
・先生に言う
・深呼吸する
・トイレに行く …



『家庭との連絡』

学校の様子を伝え、家庭の様子を把握するため、「連絡帳」を活用。



こんな内容が役立ちます！

- ・学習でのつまずき→～するとできる
- ・家庭学習で取り組むこと。支援法。
- ・学校での出来事
(本人は保護者に伝えないので…)

連絡帳袋

宿題も入れて持ち帰ることで、宿題忘れ、課題の提出先の間違いをなくす。

連絡帳



『授業に必要なものがわからず、忘れ物が多い』

必要なものを写真カードで提示。



教科ごとに必要なもの（○点セットなど）を写真に撮り、全教科分カードにして家庭に置く。家庭でそのカードを見ながら明日の用意をすることで忘れ物をなくす。



指導の形態 教材等	自立活動「落ち着いて学習しよう」	障がい種 等	特別支援学級 自閉症・情緒障がい
--------------	------------------	-----------	---------------------

授業の概要やよさ

- ・「やらない」「できない」面に焦点を当てず、本人の興味関心や現在できることを大切に学習活動を工夫している。
- ・家庭と連携しながら、生活習慣、集団生活のルールを守ることに取り組んでいる。

児童生徒の様子

小学校6年生男子

- 定期的に診察を受け服薬している。
- 「したくない」「嫌だ」が多く、給食や掃除当番をしなかったり、授業中教室を出て行ったりする。
- 書くこと、反復することを嫌がる。

目標

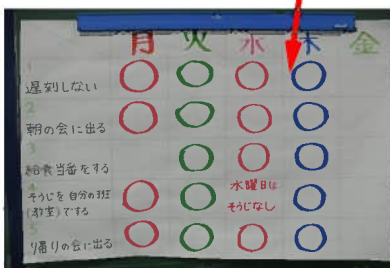
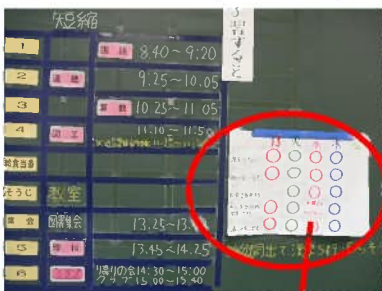
- 給食、掃除当番で任された仕事をすすめる。
- 板書の記録や書くことに意欲を持って最後まで取り組む。

支援のポイント



「したくない」「嫌だ」が多く、授業中教室を出て行くことがある。

👉 家庭と相談の上、約束表を作り教室の黒板に貼る。一週間できると好きな活動を授業の最後に行なう。できた時に良さを伝え褒めながら習慣化を目指し、ご褒美がなくてもできるようにする。



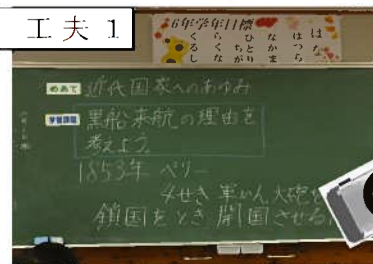
拡大



書くこと、反復することを嫌う

👉 板書やノートを使い方を工夫

工夫 1

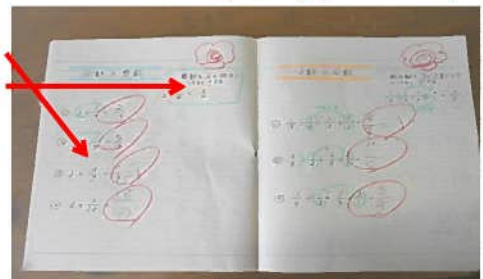


📷 デジカメで板書を撮影し、印刷してノートに貼る。

板書の字を大きくし、1時間に2～3度撮影する場面を作り、離席しにくくする。書く欄を作り、授業ポイントのみを見董が記述する。

工夫 2

見やすいよう色をつけ、記述の仕方を統一し、一人でも取り組めるようにする。時折ノートを見返し、達成感を持たせる。教師が問題、解き方やポイントを見董が記述。解き方やポイントを具体的に示す。できているところを褒め、丸をつける。



指導の形態 教材等	自立活動「書くこと」 ～集中して書くための指導～	障がい種 等	通級指導教室 LD・ADHD
--------------	-----------------------------	-----------	-------------------

授業の概要やよさ

- ・指先の巧緻性を高める工夫や、ゲームの要素を取り入れながら、正しい文字の書き方を指導する。
- ・児童の性格を的確にとらえた言葉かけにより、学習意欲を促す。

児童生徒の様子

○小学校1年男子

- ・授業中45分間着席できているが、集中力が続かず手遊びをしていることが多い。
- ・指先の巧緻性が低く、力を入れて文字を書くことが苦手。
- ・鉛筆の持ち方が独特。(上に4本がけ)
- ・止め、はね、はらいの違いを書くことはできる。
- ・小指も鉛筆の上に置いて書いている。「この持ちの方が書きやすいよ」と正しいやり方を教えるが、力が入りにくく、線がゆがんでしまう。



目標

- 鉛筆の正しい持ち方がわかる。
- 文字のとめ、はね、はらいに気づくことができる。
- 指先の巧緻性を高め、文字が書きやすくなるようにする。

支援のポイント

○鉛筆の持ち方

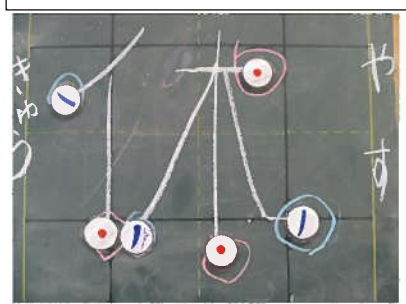
- ①親指は横、人差し指は上、中指は下にくる。
- ②小指と手のほっぺで紙を押える。(本人がイメージしやすいような言葉のかけ方を工夫する)

○指先の巧緻性

親指、人差し指、中指を使って、粘土やねり消しをつまむ、丸める、こねる。
(ねり消しの量を少なくすると親指と人差し指だけの動きになってしまうので量を調整するとよい)

○新出漢字の学習

ゲーム感覚でとめ、はね、はらいに着目させる。
「今日は、うん、しゅうっ、びんのどれが一番多く出てくるかな？当ててみよう」



※集中力が続かなくなってきたら、時間を意識させる言葉かけが効果的。
「○分までがんばってみよう」「○分間がんばれているね」

指導の形態 教材等	自立活動「話すこと」 ～順序よく話すための指導～	障がい種 等	通級指導教室 LD・ADHD
--------------	-----------------------------	-----------	-------------------

授業の概要やよさ

- ・ 1時間の活動の仕組みや働きかけを工夫する。
- ・ 話し方を手がかりにしたり、順番にカードを手に取りながら話すことで、安心して取り組めるようにする。

児童生徒の様子

○小学校3年生

- ・ 興味のあることについては集中できるが、関心のないことについてはぼんやりしていることが多い。
- ・ 考えの相違や予想外の事柄に対しては、自分の考えに固執することがあり、子ども同士のトラブルになることも多い。
- ・ 自分の伝えたいことを一方的に話し続けることがある。また、話していると内容にズレが出てきて、会話が成り立たなくなることもある。

目標

○自立活動

- ・ 席について、見通しを持って最後まで課題に取り組むことができる。
- ・ 話し方カードを使って、順序よく話すことができる。

支援のポイント

○活動の見通しを持って、意欲的に活動できるように自分でプランを立てる。

○今日の気ぶんでの話し方をシートやカードで示したり、困った時はヒントを出したりしながら考えさせ、安心して話せるようにする。

○話す時に、話し方のシートを見たり、順番カードを手にとって自分の考えを話したりする動作を伴わせることで、順番に考えながら話すことができるようにする。

A児が自分の話し方にもどった時は、ストップカードを見せ、話を一度止めて落ち着いてから続ける。

○活動の仕組みを固定化する。

- ①今日の気ぶん～ここは固定し、話し方の練習
- ②
- ③
- ④リラックスタイム

*いくつかの課題を準備
A児が選択して決める。

○話し方のパターンを固定化し、練習する。

☆今日の気ぶンは、です。

そのわけは、(①いつ ②どこで ③だれが ④何をした ⑤くわしく ⑥思ったこと) からです。

「今日の気ぶん」 お話シート

☆今日の気分は、です。

そのわけは、.....

①いつ ②どこで ③だれが ④何をした ⑤くわしく ⑥思ったこと

.....からです。

話の内容が、相手に分かるようにするため項目を示す。

その項目をカードにし、手に取りながら、順番に話せるようにする。

指導の形態 教材等	自立活動「構音の指導」 ～自由会話での正しい発音をめざして～	障がい種 等	通級指導教室 言語障がい
--------------	-----------------------------------	-----------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・口の体操や舌の運動など発語器官の運動機能訓練を取り入れる。
- ・自分の発音を録音して聞くことで指導者との違いに気づかせる等、聴覚を活用したアプローチを取り入れる。
- ・教科書を音読したり、日常必要な場面の発音練習をすることで、汎化をねらう。

児童生徒の様子

○小学校1年男子

- ・「カ・ク・コ」が「タ・ツ・ト」に置き換わる構音障がいが見られる。
- ・「キ」と「チ」、「シ」と「チ」についても置き換わる傾向がある。



目標

- 「カ行」「タ行」「サ行」それぞれの正しい音を聞き分けると共に、正しい発音ができる。
- 単音、語・文、自由会話の中で、正しい発音ができる。

支援のポイント

1. ウォーミングアップ・現状把握

- 50音口形表
- 「あえいうえお あお」
- 「がぎくげごのうた」
- 「あいうえおのうた」
- 「きゃきゅきよのうた」を読む。



〈舌の脱力〉

2. 運動機能訓練

1. 舌で押す
2. 舌を口の中に入れる
3. 舌で頬を押す
4. 舌で弾ける音を出す
5. 舌の往復運動
6. 喉の奥をこする
7. エラを軽くたたく
8. 魚のような口をつくる
9. 口をすぼめる⇄笑う
10. アラアリアルアレアロ10回
バタカ10回
あいうべー10回

3. 耳の訓練

- 「キ」と「チ」、「シ」と「ヒ」の聞き分け、言い分けの練習
- 指導者の発音を聞いて弁別
- 児童の発音を録画し、自分の発音の弁別をする。
(自分の「チ」・「キ」は、どちらの音か弁別しにくいことを意識し、「チ」・「キ」の音を出す練習をすることを確認する)

4. 構音訓練

- ホットケーキの舌(脱力した状態)で、30秒維持する。
30秒×□セット

5. 音読

- 教科書の音読
- 日常よく使う単語・短文の音読
「ポケモン」「学校に行く」等

※1から5の流れで週1時間の学習を行う。
 ※自分の音の弁別・比較・照合ができ、その構音点も理解できるようにする。
 ※系統立てた繰り返しの中で、自由会話の中でも無意識に構音できる段階に高めていく。

参考・引用文献

- ・「特別支援学校学習指導要領」 平成21年 文部科学省
- ・「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則等編」 平成21年 文部科学省
- ・「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」 平成21年 文部科学省
- ・「小学校学習指導要領解説総則等編」 平成21年 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説総則等編」 平成21年 文部科学省
- ・「教育支援資料～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～」
平成25年10月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
- ・「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究」
平成22年3月 国立特別支援教育総合研究所
- ・「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
平成23年1月31日 中央教育審議会
- ・「キャリア教育・進路指導にかんする総合的実態調査第一次報告書」 平成25年3月
- ・「生活単元学習を実践する教師のためのガイドブック」平成18年3月 国立特殊教育総合研究所
- ・「「交流及び共同学習」の推進に関する実際的研究」平成20年3月 国立特別支援教育総合研究所
- ・「平成23 全特教全国実態調査結果」 平成23年度 交流及び共同学習推進指導者研究協議会資料
- ・「改訂版 通級による指導の手引き 解説とQ&A」平成19年1月 文部科学省編著 第一法規
- ・「新しい教育課程と学習活動Q&A」平成22年 全国特別支援学校知的障害教育校長会
東洋館出版
- ・「「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック」
東洋館出版社 全国特別支援学級設置学校長協会
- ・「特別支援学校及び通級指導教室担当者のためのハンドブック」平成22年3月
熊本県教育委員会
- ・「特別支援学級経営の手引」平成24年 岩手県立総合教育センター
- ・「特別支援学級担任通級指導教室担当者ハンドブック」平成21年3月 山梨県教育委員会
- ・「自立活動」の指導の手引き 山口県教育委員会
- ・「横浜版 学習指導要領 特別支援学校・個別支援学級・通級指導教室編」
平成22年2月 横浜市教育委員会
- ・「特別支援学級及び通級指導教室経営の手引（改訂版）」平成25年3月 大分県教育委員会
- ・大分県教育センター研修紀要 第36集・第37集 平成16年、17年 大分県教育センター
- ・「幼稚園、小・中学校、高等学校における発達障がい児の支援体制の整備Vol. 1～5」
平成15年～19年 大分県教育委員会
- ・「通常学級の特別支援～今日からできる40の提案」 佐藤 慎二 2008年 日本文化科学社
- ・「通常学級の授業 ユニバーサルデザイン」 全日本特別支援教育研究連盟
2010年 日本文化科学社
- ・「障害児のための生きる力を育てる授業」平成5年7月
大分大学教育学部附属養護学校授業研究会 明治図書
- ・「主体的に活動する子どもを育てる支援の工夫」平成14年
大分大学教育学部附属養護学校授業研究会 明治図書
- ・「遊びの指導 指導計画『教育課程編成の手順と条件』」平成6年 大分大学教育学部附属養護学校
- ・「生活単元学習 指導計画『教育課程編成の手順と条件』」
平成6年 大分大学教育学部附属養護学校
- ・「作業学習 指導計画『教育課程編成の手順と条件』」 平成6年 大分大学教育学部附属養護学校
- ・「実践ソーシャルスキルマニュアル」上野一彦、岡田智 編著 2006年 明治図書
- ・「特別支援学級・通級指導教室の魅力ある実践」 大南英明 編 2010年 教育出版
- ・「LD・ADHD児へのソーシャルスキルトレーニング」小貫 悟他 2004年 日本文化科学社
- ・「特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント」 平成24年 金剛出版
- ・「学校で活かせるアセスメント」 篁 倫子 編著 平成19年 明治図書

作成者名簿

大分県教育センター 特別支援教育部

野田 幸代	友成 洋	首藤 公宏
伊美 摩紀	廣澤 俊房	白井百合子